

## 認知症の症状と接し方

看護学科 畑上 光代

### 認知症の症状

認知症の症状は認知症という病気そのものが原因となって起こる【中核症状】と、認知症の人の性格や人間関係、周辺環境などが影響して発生する【行動・心理症状(BPSD)】の大きく二つに分かれます(図1)<sup>1)</sup>。行動・心理症状(BPSD)は脳の障害である認知症を背景としますが、認知症の人の体調やこころの状態、体の苦痛や周辺環境の影響を受けて発生します。介護する家族にとって、中核症状よりも行動・心理症状(BPSD)の方が介護する上で困難感や負担感を感じやすい症状となります。また、認知症の症状はいつもそばにいる身近な介護者に対しては強く出て、時々会う人などには軽く出る傾向があります<sup>2)</sup>。

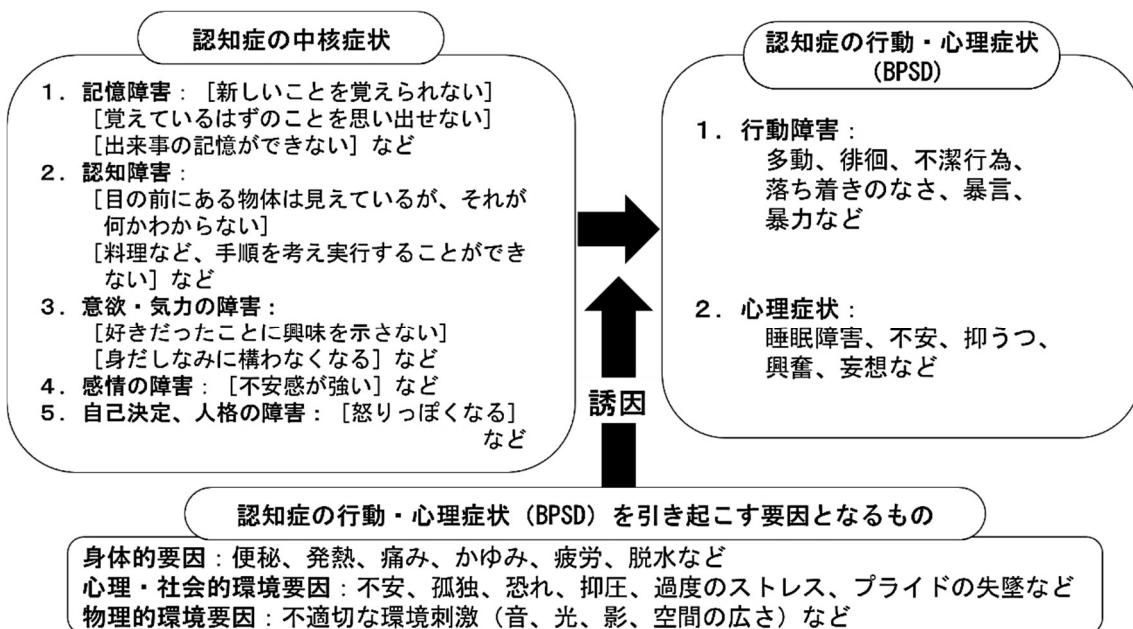


図1 認知症の中核症状と行動・心理症状(BPSD)<sup>1)</sup>を一部改変

### 認知症の人との接し方① 想像力を働かせながらかかわる

認知症の人の行動は、一見するとわかりにくく、私たちの常識では理解しにくいこともあるでしょう。しかし、認知症の本人から見えている世界に焦点をあててみると、そこには認知症の人が築いている世界があります。実際に私たちが見ている世界(=現実)とは異なる世界ですが、認知症の人にとっては認知症の人の世界が「現実」なのです。認知症の人とのかかわりは、認知症の人の行動をよく観察し、その行動の意味を想像することから始まります。例えば、認知症の人が自分の下着の中に手を入れて便を触ったり、壁などになすりつけたりすることがあります。この行動は私たちから見ると不潔で不快な行動です。しかし、認知症の人から見ると、便失禁をしてしまい①「なんだか気持ち悪いなと思って確認しよう」と

手を入れると、手に便がついてしまった」、②「手が汚れてしまったからきれいにしたいと思って、とっさに壁になすりつけた」ということなのです<sup>2)</sup>。あるいは、恥ずかしさや周囲の人に迷惑をかけたくないという思いから自分で片付けようとしているだけなのかもしれません。単に不潔な行為をしているととらえるのではなく、どうしたいのだろう？困っているのかな？助けが必要なのかな？便を何か別のものととらえているのかな？などといくつかの状況を想像しながらかかわることが大切です。ご家族は認知症の人の人生を共に歩んでこられた方々ですから、専門職よりもその方の気持ちに寄り添った想像ができる強みを持っています。時には想像を超えた答えが返ってくることもあります。そんな時は、また一つ認知症の人を理解するヒントをもらったと思えばいいのです。そうしたかかわりを積み重ねていくと、認知症の人にとって自分の世界と介護者の世界のズレを感じることが少くなり、お互いに混乱せず穏やかに過ごすことができるでしょう。

#### 認知症の人との接し方② 認知症の人が持つ力に着目して「その人らしさ」を活かす

アルツハイマー型認知症の丹野さんは「できることを奪わないでください。時間はかかるかもしれません、待ってあげてください。…行動を奪わないことが気持ちを安定させ、認知症の進行を遅らせると思う。」と語ります<sup>3)</sup>。「認知症の人＝何もできない人」というイメージを持たれることもあります。しかし、認知症の人は動作が遅くなってしまっても、手順が覚えられなくなっていても全然できないわけではありません。介護者が「これはできないだろう」と決めつけて介助することは、認知症の人から見ると「何もさせてもらえない」状況を作り出しているとも言えます。認知症の母を在宅で介護した高畠さん<sup>4)</sup>は、母が好きな落ち葉掃きや雑巾縫いをしてもらったり、母の趣味である大正琴や花札ができる環境づくりを積極的に行いました。認知症であっても落ち葉掃きの途中で近所の人と立ち話をしたり、たくさん縫った雑巾を寄付したりと、好きなこと・できることをしながら社会とつながりを持ち生活していました。認知症の人の「その人らしさ」を活かすとは、趣味や得意としていたことをやるだけでなく、その人が生きてきた生活を作り出すということでもあります。認知症の人は昔のことほどよく覚えており、今どの時代を生きているのかは人それぞれです（壮年期だったり、10代だったり…）。認知症の人が今どの時代を生きているのか、また、その時代にどのような生活をしていたのかを考え、認知症の人の力を使いながら今できることを少しずつ、ゆっくりとでもやることが「その人らしさ」を活かしたかかわりになります。

1) 中島紀惠子, 他 : 新版認知症の人々の看護, pp62, 医歯薬出版, 2013

2) 杉山孝博 : 認知症の人の不可解な行動がわかる本, pp7, 64-65, 講談社, 2014

3) 中島紀惠子 : 認知症の人とその家族から学んだこと⑩. 訪問看護と介護, 23(11) : 834-835, 2018

4) 高畠富美子 : 第22回【はあと記念】老人福祉・保健文献賞最優秀作母の世界に付き合って—在宅介護実践記録. 月刊福祉, 78(13) : 106-111, 1995